

甲虫の奇型3種

(兵庫県甲虫相資料・97)

高橋 寿郎

甲虫の採集を続けてやっていると奇型というものにも結構出会うものである。数多く集めて分類し奇型生成的影響がなんであるかその利用機構はいかなるものであるか等を追求することも面白いかもしれない。

こゝに1981年度に採集出来た3種の甲虫奇型を見て頂き度いと思う。いづれも上翅の短縮、抑圧に類するものである。

1. タマムシ *Chrysochroa fulgidissima* Schönherr (タマムシ科). ♀、神戸市北区藍那産 (12-Ⅶ-1981、体長、34mm) (Fig. 1).

ご覧の如く上翅、下翅共約下部の1/2近くの所から左側に大きく曲った状態で発育したもので左上翅先端近く可成りひどく陥凹し曲っている。腹節も先端にかけてねじれている。欠如した様な所はない。道端の草叢にとまっていたのを採集。

2. ベニボタル *Lycostomus modestus* Kiesenwetter (ベニボタル科)。神戸市鳥原産 (17-Ⅵ-1981、体長、11mm) (Fig. 2).

写真が悪くて申し訳無いが右上、下翅共一緒にねじれてしまっていて完全な発育をしていない。道端の草叢にとまっていた。

3. キマワリ *Plesiophthalmus nigrocyaeus* Motschulsky (ゴミムシダマシ科)。1♂、神戸市鳥原産 (2-Ⅵ-1981、体長、17mm) (Fig. 3).

左側上翅先端部が左側に曲ると共に短縮している。右上翅中央部は大きく凹陷している。この凹陷というのはキマワリには割合多く見られる現象である。コナラの樹を歩るいていた。

(5-Ⅸ-1981)

(S.45 : TOSHIRO TAKAHASHI
神戸市)

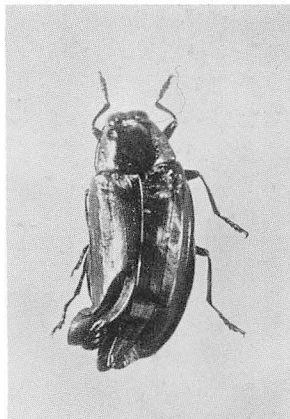


Fig. 1 タマムシ♀
神戸市北区藍那産 (12-Ⅶ-1981) 体長34mm

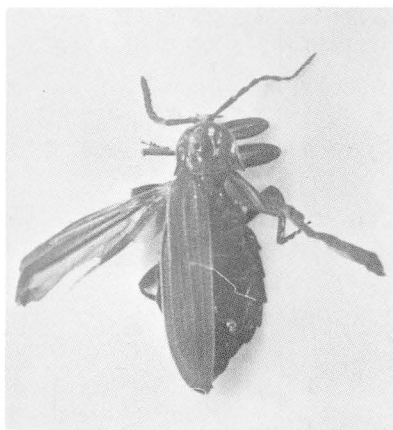


Fig. 2 ベニボタル
神戸市鳥原産 (1981. Ⅵ. 17) 体長11mm

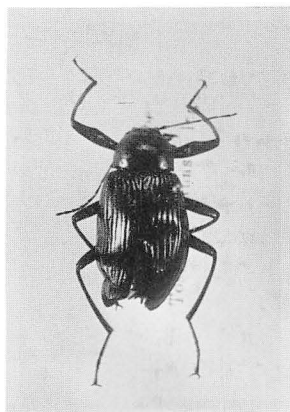


Fig. 3 キマワリ ♂
神戸市鳥原産 (1981. Ⅵ. 2) 体長17mm